



英田に大阪の走り屋が集合した。マシンはいの日のために岡山県——サーキット・キットを思う存分に駆けて

り屋が集合して、
鍛えられ、サーキットを走る
ゆく。オーナーのドラ・テクも確かだ。

らを読んで欲しい。

走行会は、30分づつ計2回行なわれた。T-サー・キット・英田はメンタリティとテクニックが求められるハイレベルコースだ。生半可なドライバーでは扱いきれないのだが、どのマシンも追い越しコーナーの「バイバー」コーナー、F3でも全開でいける「マイクナイトコーナー」(コース図参照)等を見事なライセンでクリアしてゆく。腕前はどのドライバーも十二分に磨かれたものだった。マシンそしてドライバーのグレードの高さを感じさせてるものがあった。

マシンの内容だが、大多数はブーストアツブとマフラーの交換、そして足回りの強化といったものだ。サーキットを走るということを意識してセミレーシングタイヤを装着している人も目立つた。ノーマルのスポーツタイヤだと、サークル2~3周でヘタッテしまうことが多いので、手間とお金を惜しまないならベターな選択だ。目立ったマシンについては後ほどインプレを行なっているので、そちらを読んで欲しい。

ターボチューンの関西の雄、トライアル。そのトライアルの呼びかけで5月1日、岡山県のT-1サーキット・英田において走行会が行なわれた。参加マシンは43台。オーナーとオブザーバーを加えて70名を越える規模の大きいものだった。

参加マシンをメーカー別にすると、ニッサン19台、トヨタ12台、マツダとホンダが6台そしてBMWが1台といった具合だ。あらためて走り屋のニッサン好きを肌で感じた。特にその19台の内12台がスカイライン。しかもその10台がGTRときていて。何をか言わんやである。

GT-Rが主力の 参加マシン